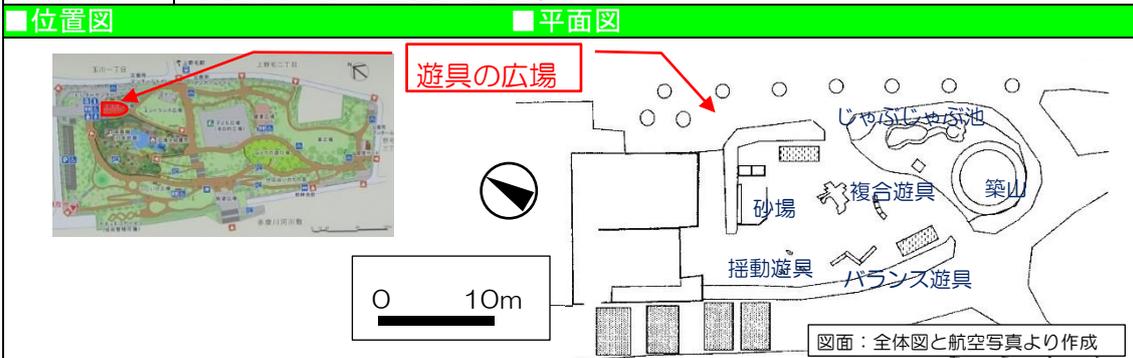


5) 世田谷区立二子玉川公園 遊具の広場



砂場や水遊び場など、ユニバーサルデザインによる施設が整備されている。

■施設概要			
公園名	世田谷区立二子玉川公園	広場名	遊具の広場
整備主体	世田谷区	管理団体	世田谷区
整備年次	平成 25 年 3 月 遊具の広場を含む一部区域が開園。	公園種別	地区公園
公園面積	約 6.3ha	広場面積	約 750 m ²
開園時間等	常時開園 無料 ビジターセンターが隣接している。		
整備の背景 整備概要 等	<p>公園は、周辺町会、周辺小中学校のPTA、公募の区民による公園検討会で計画された。その中で、子どもがのびのび遊べる空間づくりが必要とされ、幼児対象と児童対象の2カ所の遊び場が整備された。設計段階から公園全体がユニバーサルデザインに配慮された計画となっている。特色ある施設として、障がい者や子育て団体とも意見交換して造った日本庭園や、民間事業者の設置・運営による飲食店（カフェ）などがある。</p> <p>遊具の広場は、小さな子どもが遊具で安心して遊べる広場として整備されている。砂場や水遊び場、ベンチなどはユニバーサルデザインに配慮した仕様となっている。</p>		
主なUD 遊具 等	<p>車いすでも楽しめるレイズド砂場 車いすでも触れる流れや入れる徒渉池 這い登ったり、転がったりできるゴムチップ舗装の築山 遊具の広場とは離れた場所には、レイズド花壇、ハーブの花壇がある。 南側のみどりの遊び場には、地形の傾斜を利用した滑り台がある。（上部と下部はバリアフリー園路で接続されている。）</p>		
管理運営	<p>区民・行政・事業者の協力による管理運営をめざしている。区民参加のワークショップにおいて、公園サポーターが組織されている。日常的な管理活動を支援するボランティアグループであり、「みどり」、「子ども」、「安全安心」の3グループで活動している。</p>		



■主な遊具・施設



ビジターセンターと広場 隣接する左の白い建物がビジターセンター。



レイズド砂場 車いすに乗ったまま利用できる。



レイズド水遊び場 砂場同様、車いすに乗ったまま水の感触を楽しむことができる。



シャブシャブ池 車いすでも入ることができる。



ゴムチップ系舗装の築山 這って登ったりすることができる。



登はん系の遊具 パネル遊具などと組み合わせている。



音が楽しめるパネル遊具 複合遊具に組み込まれている。



レイズド花壇 遊具の広場とは別の場所に整備されている。

6) 豊島区立 としまキッズパーク

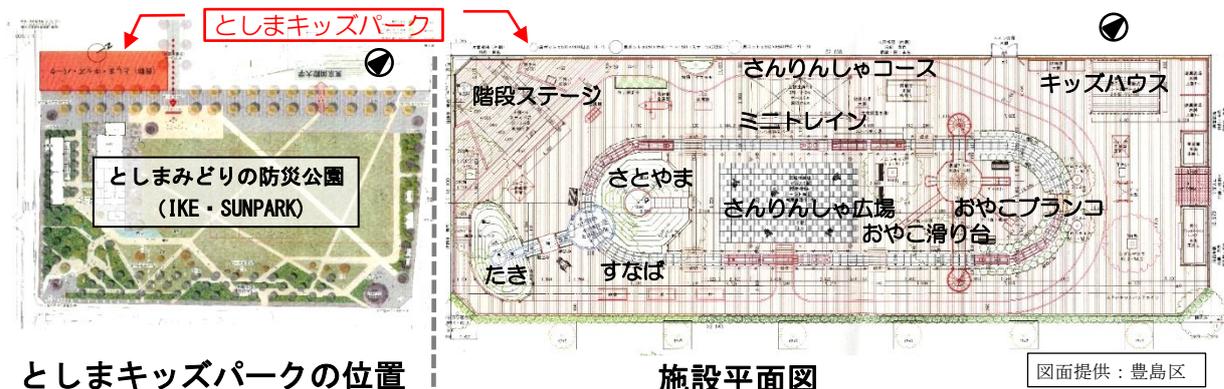


赤色（IKEBUKRO RED）をシンボルカラーとしてデザインされた、特色ある遊び場。

■施設概要

公園名	としまキッズパーク	広場名	—
整備主体	豊島区	管理団体	（リース契約）
整備年次	令和2（2020）年9月開園	公園種別	街区公園
公園面積	約 1,000 m ²	広場面積	—
開園時間等	10:00～16:00、利用時間1時間の完全入替制（R3.2月現在） 管理者常駐、無料		
整備の背景	<p>令和元年度に、区議会でインクルーシブな遊び場の必要性が取り上げられた。またあわせて、区民や区内団体から同様の要望などもあり、令和2年度に整備した「としまみどりの防災公園（愛称：IKE・SUNPARK）」に隣接して、「としまキッズパーク」を整備した。</p> <p>世界的な工業デザイナーである水戸岡鋭治氏の設計である。</p> <p>「公園の遊具全部がユニバーサルデザインでなくとも良い、1～2基でもインクルーシブな遊具があれば一緒に遊べる。」という関係保護者の意見もあり、参考とした。</p> <p>ミニトレインの導入、柔らかな木質感の床面などは、設計者の水戸岡氏の提案。</p>		
運営管理	<ul style="list-style-type: none"> • 現在は、新型コロナの影響で、事前予約制の閉鎖管理を行っている。 • 1時間の入れ替え制。10時,11時,12時、13時,14時,15時の6回/1日。 • 午前中は近隣等の保育園児の利用、各回80名程度の入れ替え制。大人、子供込み。1日最大で400名位までは許容。 • 設計から維持管理、運営までを5カ年のリース契約で行っている。 • スタッフによる有人管理を行っている。 		
利用状況等	<ul style="list-style-type: none"> • 当初、予約制は想定していなかった。利用希望者から予約が取りにくいとの声もあるが、当日受付も始めたため、週末を除きかなり入園しやすくなってきている。 • 供用開始後、特に大きな問題は起きていない。 		

位置図と施設平面図



としまキッズパークの位置

施設平面図

図面提供：豊島区

主な遊具



おやこ滑り台 幅1mあり、親子で滑ることができる。未就学児を対象にしている。



おやこブランコ 乗り移りがしやすくなっている。軽い揺れを楽しむことができる。



ミニトレイン 扉がついており、跨ぐことなく乗り降りできる。



おやこレールバイク レールを走ることができ、4輪車は、前かごに小さな子どもを乗せることができる。



キッズハウス 屋根が日除け、雨除けになる。中では、木のおもちゃで遊ぶことができる。



すなば 車いすでも砂遊びができる。

7) 札幌市立 藤野むくどり公園



藤野むくどり公園とむくどりホーム

■施設概要

公園名	藤野むくどり公園	広場名	—
整備主体	札幌市	管理団体	札幌市 むくどりホームふれあい会
整備年次	平成8年8月開園	公園種別	街区公園
公園面積	745㎡	広場面積	—
開園時間等	常時開園 無料		
整備の背景 整備概要 等	<p>バリアフリーの公園づくりを目指して、ワークショップ形式で公園設計が進められた。市からの呼びかけに、地域住民の方々をはじめ、福祉ボランティアの方、教育関係者、障がい児のお母さんなど50余名の参加を得て、5回に及ぶ集いが開催され、ここで検討された計画案が具体化されていった。</p> <p>このワークショップ参加者が中心となって「むくどりホームふれあい会」が結成され、以降の公園をとりまく市民活動は、この会に引き継がれている。</p>		
主なUD 遊具等	<p>車いすのままで使える砂場 椅子型ハーネス付のブランコ 触れやすい噴水 点字のついた案内板 滑り台や吊り橋などからなる複合遊具 など</p>		
管理運営	<p>公園の近所に住む方が、「公園がバリアフリー公園としてふれあいの輪が継続していくためには、ふれあいの拠点が必要」との考えから、ご自宅を改造して「むくどりホーム」として開放している。ホームは週数回、利用者に開放されていて、様々な人が集い、ふれあいの場となっている。（HP参照）</p> <p>会の運営は、市から町内会への公園管理の委託料や共同募金助成金、個人や団体からの寄付に加え、会の活動に賛同する多くのボランティアスタッフによって支えられている。</p> <p>こうした取組は高く評価され、福祉のまちづくり賞等も受賞している。</p>		

■イメージパース



図面提供：札幌市

■主な遊具・施設



複合遊具 ローラー滑り台は傾斜もゆるく、保護者が子どもを抱えて一緒に楽しめる。



ブランコ 開園当初から椅子型のブランコが設置された。



レイズド砂場



水に触れやすい噴水 小さな子も水にさわりやすいかたちの噴水。水が流れる音も楽しめる。



車いすのまま憩える藤棚



点字表示付き公園案内板

写真提供：札幌市

8) 一関市立 一関遊水地記念緑地公園 子ども広場 オーストラリア・ジャパソ・フレンドシップパーク

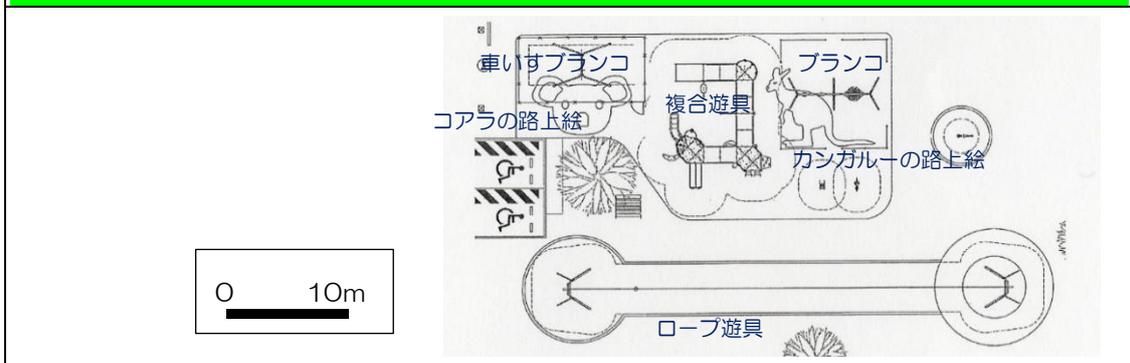


オーストラリア連邦クィーンズランド州セントラルハイビス市が整備し、一関市へ寄贈された広場である。

■施設概要

公園名	一関遊水地記念緑地公園	広場名	子ども広場 オーストラリア・ジャパソ・フレンドシップパーク
整備主体	一関市・オーストラリア連邦 クィーンズランド州セントラルハイビス市	管理団体	一関市
整備年次	平成27(2015)年10月	公園種別	総合公園
公園面積	約14.24 ha	広場面積	約0.1 ha(図測)
開園時間等	常時開園 無料		
整備の背景 整備概要 等	広場は、一関市と国際姉妹都市であるオーストラリア連邦クィーンズランド州セントラルハイビス市によって設置され、一関市に寄贈された。クィーンズランド州では、障がいの有無に関わらず、誰もが同じ空間で楽しむことができる公園整備を推進しており、セントラルハイビス市には、「オールビリティパーク」として健常者と障がいのある人が一緒に遊べる公園があり、車いすのまま乗れる「車いすブランコ」も設置されている。この「オールビリティパーク」の理念を国際姉妹都市である一関市を通じて、日本に広げてもらいたいという強い思いを乗せて広場が整備された。		
主なUD 遊具等	車いすブランコ ポケット型ブランコ スロープのある複合遊具	ゆりかご(円盤)型ブランコ スプリング遊具 コアラやカンガルーの路上絵 など	
運営管理	車いすブランコは、現在、一関市スポーツ振興課が管理している。車いすブランコとそのフェンスは常時施錠し管理をしているので、利用の際は解錠する必要がある。近くの施設管理事務所で利用申し込みと鍵借用の手続きを行っている。		

■平面図



■ 主な遊具・施設



車いす専用ブランコ 乗るには予約が必要となっている。コアラがデザインされた路上絵がある。



複合遊具 スロープがついており、車いすで登り、滑り台を滑ることができる。設置面はゴムチップ舗装。



バケット型と円盤型のブランコ 体幹の弱い子どもも楽しむことができる。カンガルーがデザインされた路上絵がある。



ロープ遊具

写真提供：一関市

9) 藤沢市立秋葉台公園



神奈川県内では初となる「誰もが遊べて、誰もが楽しめる広場」として整備。

■施設概要

公園名	藤沢市立秋葉台公園	広場名	—
整備主体	藤沢市	管理団体	(公財) 藤沢市みらい創造財団
整備年次	令和3(2021)年3月開園	公園種別	運動公園
公園面積	約 7.7 ha	広場面積	約 0.27 ha
開園時間等	常時開園、無料		
整備の背景	<p>秋葉台公園の広場には、ユニバーサルデザインに配慮した複合遊具があったが、老朽化が目立つようになってきたため、周辺遊具も合わせて改修整備を行った。</p> <p>藤沢市では、令和2年の施政方針で、「共生社会の実現をめざす誰一人取り残さないまち」(インクルーシブ藤沢)を目指しており、そのテーマの一環として、この広場にある既存の遊具を改修し、「誰もが遊べて、誰もが楽しめる広場」へ整備した。</p> <p>遊具を先行的に整備し、利用していく中で、意見等を伺いながら段階的に整備を進める進化型の広場を目指している。県内では「インクルーシブな公園」のコンセプトをもった初の試みといわれている。</p> <p>令和3年3月に開園、前年の12月には、広場での遊び等を支援する市民団体も発足した。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> • 車いすでアクセスでき、楽しめる複合遊具 • 車いすのまま乗れるスウィング系遊具 • 体幹の弱い子どもも乗れる回転系遊具 • 体幹の弱い子どもも乗れる椅子型ハーネス付のブランコ • 交流・休息の空間など 		

配置図



資料：藤沢市
記者発表資料より

複合遊具

車いすのままアクセスできるスロープや、車いすからの移乗ポイントを設定した、アクセシブルな構成。
難度のある動線やワールダウンポイントを設けると、多様な子が一緒に楽しめる遊具です。

遊具の配置について
子どもたちの適度な集中を助け、様々な動きの遊び体験ができるようコンビネーション遊具の他、3つのユニバーサル遊具を配置しています。

スウィング系遊具

複数人で乗れるスライド式の遊具です。スロープで車いすのまま乗り、車いすの人も揺らす役が出来るので、自立心を得られます。また、体幹が弱い子も安定して座れます。多人数で遊ぶことで楽しさが増加します。



回転系遊具

車いすからの移乗も可能な設計の、複数人乗りの回転遊具です。高さに変化があり、高い部分は外側で回す子供の手がかりや、体幹が弱い子も安定して座れる「ハイバック高」になります。他の子どもの表情を見ながら乗れるので、楽しさが増加します。



柵ベンチ

ベンチと柵の両方を兼ねられる柵ベンチは、見守りやすさが重視されるユニバーサル遊び場に適した設備です。適切なエリア分けをしながら、保護者の休憩場所として機能します。見通しの良さも見守りやすさに貢献します。

3連ブランコ

体を保持する大型リクライニングシートが設置されたブランコです。ハーネスでしっかりと体を固定するので、体幹が弱い子も安心して乗ることが出来ます。ブランコの揺れで重力やスピードを感じることで「前庭感覚」への刺激となります。



複合遊具 車いすのままアクセスできるスロープや車いすからの移乗ポイントを設定したアクセシブルな構成。



ブランコ 体幹の弱い子も乗れる椅子型ハーネス付のブランコ。



回転系遊具 車いすからの移乗も可能な設計の複数人乗りの回転遊具。体幹が弱い子も安定して座れる席となっている。外周には藤棚と野外卓やベンチがあり、交流や遊ぶ子ども達を見守ることができる。



スウィング系遊具 車いすの子も、体幹の弱い子も一緒に乗ることができる。周りの芝生広場は、交流や休息の場となる。

10) 品川区の取組—子どもたちのアイデア等を活かした公園づくり—

■取組の概要

■取組の経緯

品川区では、『区民と区の協働で、「私たちのまち」品川区をつくる』という品川区基本構想の理念に基づき、平成20年度に子どもたち自身が様々な議論と検討を行い、広く区民に愛される公園を整備するための計画案づくりを開始した。以降の公園改修においては、子どもたちのアイデアを活用した公園整備として、その計画案を実現すべく設計・工事を実施することとしている。

この検討の特色は、子どもたち自身が公園を計画するというコンセプトを引き継ぎつつ、障がいをもつ子どもたち等も使用できるユニバーサルデザインに配慮された公園（遊具）を実現する計画案を作成していることである。

■ワークショップの企画・運営

ワークショップを開催し、レクチャー、クイズ、インタビュー等によりユニバーサルデザインを考えるきっかけを子どもたちに与え、計画案がされた。5回開催されたワークショップのそれぞれの目標・目的は以下のとおりである。

- 第1回 お互いを知る、発言しやすい雰囲気をつくる、遊びのタイプをみつける
- 第2回 人の多様性や多様なニーズがあることに気付く
- 第3回 公園に含まれる多様な工夫に気付く
(二子玉川公園の遊具の広場を訪れてのワークショップ)
- 第4回 ユニバーサルデザイン、インクルーシブの観点を学ぶ
インクルーシブな遊び場づくりのポイントを学んでのアイデア出し
- 第5回 子どもたちによるアイデア出し
- 発表会 成果の共有



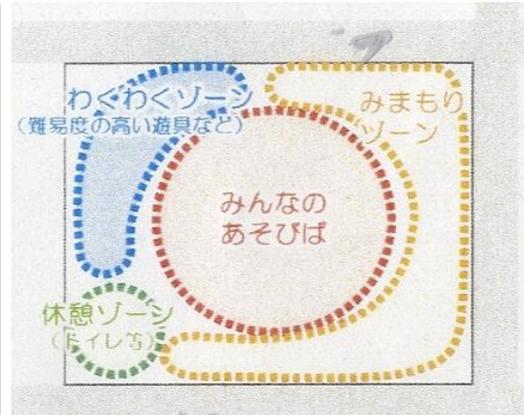
子どもたちのアイデア等を活かした公園づくりワークショップ
アイデアブック

アイデアブック ワークショップの成果がアイデアブックとしてとりまとめられた。

■公園計画案の作成

品川区でのゾーニング検討の一例

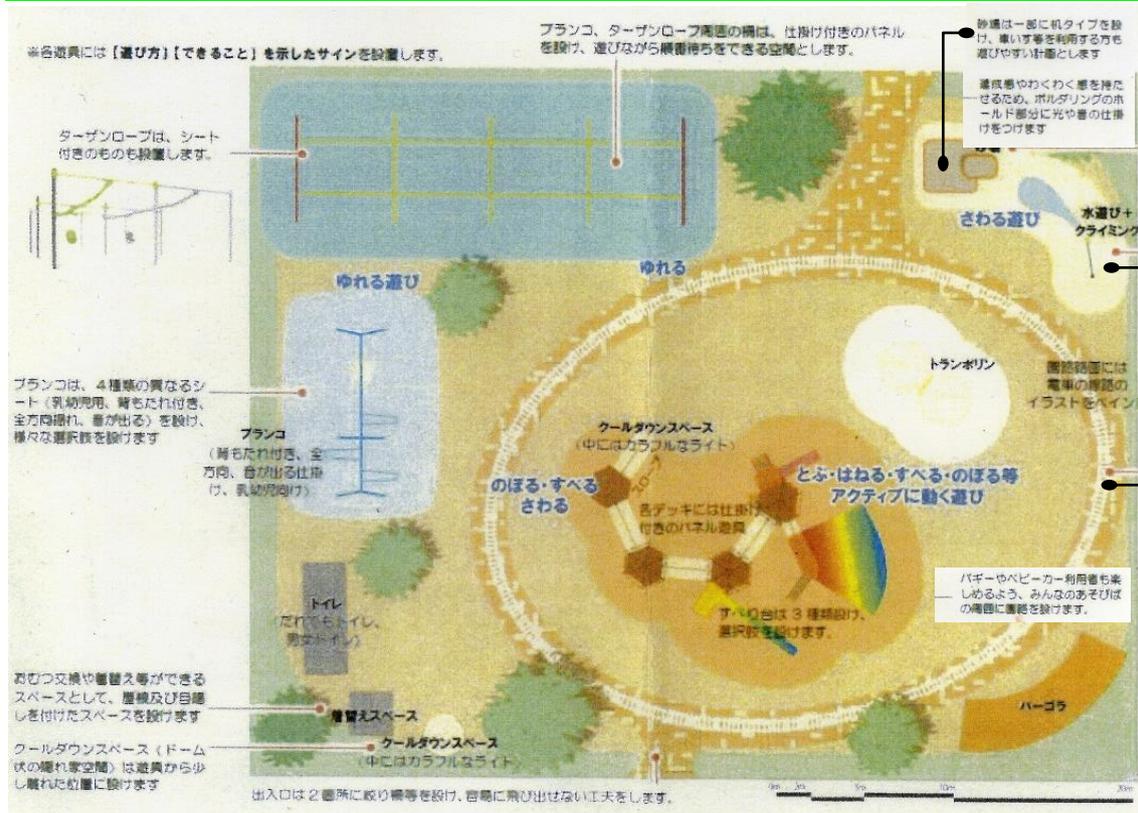
ゾーン名	ゾーンの考え方	配置する施設
みんなのあそびば	公園全体の中で中心に位置し、また誰もがアクセスしやすいゾーン	ユニバーサルデザインに配慮した遊具
みまもりゾーン	「みんなのあそびば」と隣接し、公園全体のような見渡すことができるゾーン	ベンチや日除け等
わくわくゾーン	「みんなのあそびば」と隣接した、子どものチャレンジ精神を引き出すゾーン	難易度や対象年齢が高い遊具(ユニバーサルデザインではない遊具も含む)
休憩ゾーン	トイレや水飲み場等、公園利用者が休憩することができるゾーン	だれでもトイレ、着替えスペース、クールダウンスペース等



計画案ゾーニング

資料：「子どもたちのアイデアを活かした公園づくり基本構想委託 報告書」品川区

■公園計画案



資料：「子どもたちのアイデアを活かした公園づくり基本構想委託 報告書概要版」(品川区)より

11) シンボルプロムナード公園（期間限定）



公園指定管理者の自主事業として一定期間公園に遊具を設置。遊び場の検証を行った。

■位置図



シンボルプロムナード公園「ウエストプロムナード」エリア。フジテレビ湾岸スタジオと日本科学未来館の間の芝生エリア

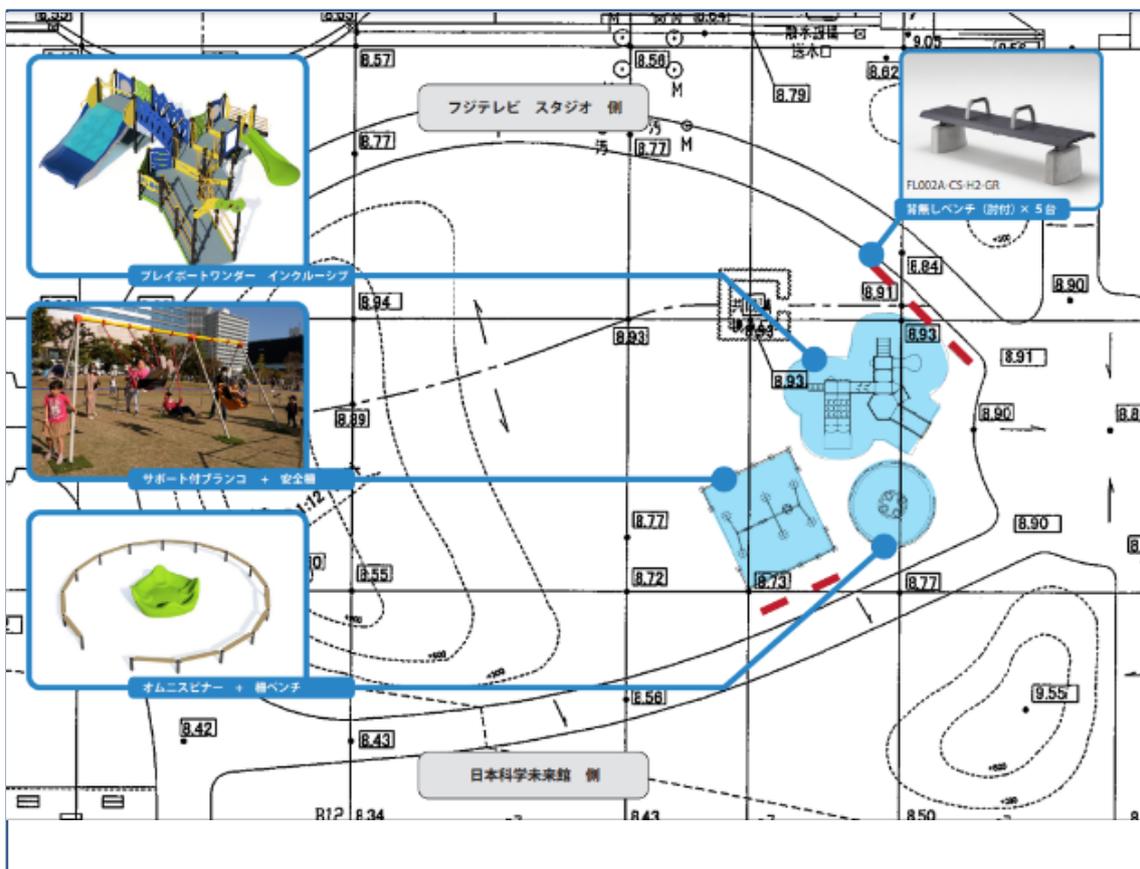
設置場所

■施設概要

公園名	都立シンボルプロムナード公園	広場名	インクルーシブ・プレイグラウンド
整備主体	東京港埠頭株	管理団体	東京港埠頭株
整備年次	令和3年4月	公園種別	海上公園
公園面積	約29.4ha（開園面積）	広場面積	約4,500㎡
開園時間等	令和3年4月15日から7月25日に開設		
整備の背景	<p>これまで利用が叶わなかった障害を持つ方々も健常者と一緒に遊べる環境を実際に整備することで、多様な利用を創出するとともにリアルタイムの利用から得られるデータとノウハウの蓄積を目的とし、指定管理者の自主事業として行なわれた。</p> <p>この取組みを「先進的で魅力あるまちづくり」を推進し、オリンピックの開催で注目が集まる「東京臨海副都心」の都立シンボルプロムナード公園にて仮設整備することで、共生社会への新たなチャレンジを公園から発信する取り組みを行った。</p>		
主な遊具等	複合遊具 回転遊具 サポート付き3連ブランコ ベンチ		

<p>管理運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遊具に関してはこの検証作業の協賛企業の遊具メーカーが設置し、遊び場の管理は当公園の指定管理者である東京港埠頭株式会社が行った。遊び場に仕切り等設けず、常時来園者が利用できる状況下の基、約3か月半の間遊具を一般開放した。 管理としては毎日の巡回、遊具の目視点検を行うと共に、遊具メーカーが定期的に遊具の設置状況を確認した。
<p>利用状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルスの蔓延時期でもあったため、対外的な告知活動は行わず、近隣の居住者や特別支援学校の子ども達を中心に利用頂いた。 期間中は比較的混雑することなく一般開放が行われ、事故やトラブル無く検証を終了した。 利用者の実態調査を行うため、QRコードを遊具に設置し、任意によるオンラインのアンケート調査を行った。期間中に約80件のアンケート回答を頂き、遊び場、遊具に関する様々な意見、要望を収集した 誰もが遊べる遊具広場の視察として、期間中に東京都内、及び周辺自治体の公園整備担当者も視察に来られた。管理者が把握する限りでは32件の視察があった模様。

■配置図



■主な遊具



プレイポートワンダーインクルーシブ
だれもが遊びやすい設計と、様々な遊びの機能を持ち合わせた遊具。



オムニスピナー
車椅子からの移乗のし易さ等も考慮して設計された回転遊具。



サポート付き3連ブランコ
通常のブランコ2座に加え、サポートの付いたシートを1座設置したブ



ベンチ
子どもだけでなく保護者や介助者も快適に過ごせる様、ベンチも設置

■その他施設・備品



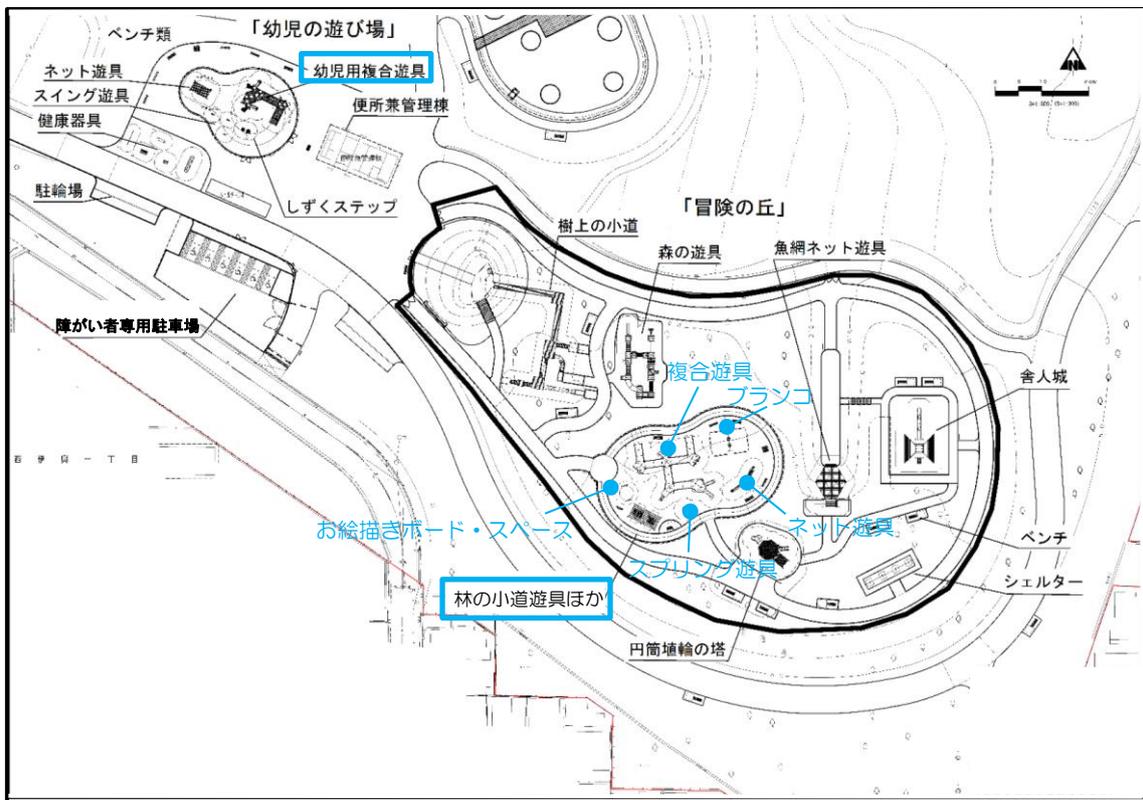
トイレ
バリアフリー仕様



コンセプトサイン
遊び場の考えを利用者に周知するため、遊具にメッセージサインを記載

■施設概要			
公園名	都立舎人公園	広場名	冒険の丘（林の小道遊具ほか） 幼児の遊び場
整備主体	東京都	管理団体	公益財団法人東京都公園協会
整備年次	冒険の丘 令和3（2021）年4月 幼児の遊び場 令和3（2021）年10月	公園種別	総合公園
公園面積	63.1ha（開園面積）	広場面積	冒険の丘 約10,000㎡ （うち林の小道遊具ほか 約1,000㎡） 幼児の遊び場 約1,200㎡
開園時間等	夏10：00-17：00 冬10：00～16：00 無料。		
整備の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・舎人公園の北を流れる毛長川流域は、区内でも最も遺跡が集中しているところであり、すでに古墳時代には人々の生活の場になっていたことから、これらの歴史をモチーフとして「冒険の丘」は整備された。 ・安全な利用を促すためにゾーニングを行い、「冒険の丘」は6才から12才を対象とした遊具を設置し、「幼児の遊び場」には3才から6才を対象とした遊具と大人向けの健康遊具を設置し、子供から大人まで幅広い世代がそれぞれに楽しみを持ちながら一緒に訪れてもらえる場所になるようにした。 ・現在、公園遊具においてもユニバーサルデザインを採り入れることが標準であるとの考えから、「冒険の丘（林の小道遊具ほか）」や「幼児の遊び場」に車いす利用者や自分の力で体を支えられない子どもも遊べる遊具を追加し、多様な利用者が集える広場の実現を図った。 ・安全性を重視し、高さのある遊具周辺の舗装はゴムチップ舗装とした。 		
主な遊具等	「冒険の丘（林の小道遊具ほか）」 複合遊具 ブランコ ネット遊具 スプリング遊具 お絵描きボード・スペース 休憩施設等 「幼児の遊び場」 幼児用複合遊具		
管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・舎人公園の指定管理者である（公財）東京都公園協会が管理している。 ・冒険の丘は、夏期は午前10時から午後5時まで、冬期は午前10時から午後4時まで利用可能。時間外は施設。 ・遊具の安全点検、毎朝、開場前に行う他、触診・聴診点検、有資格者による点検等を、定期的実施。 ・「冒険の丘」前に設置されている便所兼管理棟および広場内にはスタッフが常駐しており、利用の様子を見回っている。 ・隣地に駐輪場を設置。障がい者専用駐車場では、事前予約を受け付けている。 ・暑さ指数31超えや注意報警報発令時には、利用者に注意喚起を行う。 		
利用状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン当初から、多くの子ども達に利用されている。ほぼ毎朝、開場を待つ子どもや保護者が集まっている。 ・平日の場合、午前中は2～3才の幼児、午後は帰路途中の園児、閉場間際には小学生が多い。 ・土日祝は利用者が特に多く、保護者を含め1000人を超える日もあった。 ・人気の落書きコーナー用に貸し出しているチョークは、月平均で約100本。 ・閉園時刻になっても遊び続ける子どもや大人がいるため、職員が場内を移動しながら、退場を促している。 		

■ 平面図



■ 主な遊具

「冒険の丘（林の小道遊具ほか）」



複合遊具「林の小道遊具」

（6～12才向け）

車いすや歩行器でトップデッキまで上がることができる。階段は車いすが横付けでき、移りやすいようになっている。付添の方やお友達と一緒に滑ることができる2連滑り台がある。デッキには太鼓や伝声管、遊びパネル（聴覚や触覚で楽しむ）がついている。



二連ブランコ（6～12才向け）

背もたれと安全バーが付いているブランコのため、体を自分の力で支えられない子どもも乗って楽しむことができる。



ネット遊具「キッドネットロープコース」

（6～12才向け）

ロープを掴みながら、揺れるはしごを楽しむことができる。ハンモックは寝転んで遊ぶこともできる。



スプリング遊具「ロックアバウト」

（6～12才向け）

一人でも友達と一緒に乗っても揺れを楽しむことができる。寝転んで遊ぶこともできる。



お絵描きボード・スペース（6～12才向け）

お絵描きボードは、車いすに座ったままお絵描きを楽しむことができる。地面にも黒板があるため、地面にお絵描きをすることもできる。

「幼児の遊び場」



幼児用複合遊具（3～6才向け）

ベビーカーや車いす、歩行器でトップデッキまで上がることができる。階段は車いすが横付けでき、移りやすいようになっている。

デッキにはO×パネル、チャイムやベルのパネル、ドライビングパネル、コロコロパネル、柱に伝声管がある。

■主な施設



駐輪場

冒険の丘入口付近には、駐輪場がある。冒険の丘や幼児の遊び場内は自転車乗入れ禁止となっている。



障がい者専用駐車場

冒険の丘入口付近には、障がい者専用の駐車場がある。利用は事前予約制。



外周フェンス①

冒険の丘の外周はフェンスで囲われており、夜間は閉場している。



外周フェンス②

林の小道遊具付近の斜面勾配が大きい箇所については転落防止のため、フェンスを設置している。

Ⅵ 参考資料



便所兼管理棟

来園者用の便所、ベビー休憩室、スタッフが常駐する管理棟がある。

ベビー休憩室には、授乳室やおむつ交換台が設置されている。



休憩スペース②

冒険の広場に設置されているベンチは、車いすの方と一緒に利用できる。



休憩スペース①

林の小道遊具付近の休憩スペースは、パーゴラによって日差しが遮られている。また車いすの方と一緒に利用できるテーブルが設置されている。

(2) 海外の先進事例・参考事例

以下の先進事例・参考事例を紹介する。

表VI-1-2 海外の先進事例・参考事例

NO	広場名	国名	都市名 公園名 等
1)	Playground for All Children	アメリカ	ニューヨーク市 フラッシング メドウ コロナ パーク
2)	Joseph E. Devoy Playground	アメリカ	ニューヨーク市 フォレスト パーク
3)	Ancient Playground	アメリカ	ニューヨーク市 セントラル パーク
4)	LATCP Accessible Park & Playground	アメリカ	ニューヨーク州 ロングアイランド アイゼンハワー公園
5)	Palo Alto' s Magical Bridge Playground	アメリカ	カリフォルニア州 パロアルト ミッチェル パーク
6)	Redwood City' s Magical Bridge Playground	アメリカ	カリフォルニア州 レッド ウッド シティ レッドモートン パーク
7)	Pioneer Park All Abilities Playground	オースト ラリア	クイーンズランド州 カラウンドラ市 パイオニアパーク
8)	その他の海外事例	—	—

■アメリカの概況

アメリカでは障害をもつアメリカ人法（ADA=Americans with Disabilities Act of 1990）の後押しや、公園遊具メーカーのユニバーサルデザイン遊具の開発競争、NPO や市民グループの熱心な活動などを背景に、次々とインクルーシブなプレイグラウンドが整備されてきている。

当初は先進的な取り組みだったインクルーシブなプレイグラウンドづくりも、多くの整備事例や普及した専門的な情報や技術などで、特別な専門家や潤沢な資金をもたない自治体でも整備できるような環境になってきているといわれる。

アメリカで、積極的な活動を続ける主な NPO として以下のようなものがあげられる。

□Shane's Inspiration（シェーンズ インスピレーション）

カリフォルニア州を拠点に、米国内外でだれもが利用できる公園をつくる支援活動をしている。また、公園を活用した各種イベント等の企画、開催なども行い、多様な子どもたちの交流や相互理解の促進に積極的に取り組んでいる。

(<http://www.shanesinspiration.org/>)

□Boundless Playgrounds（バウンドレス プレイグラウンド）

コネチカット州を拠点に、コミュニティに子どもたちのための特別なプレイグラウンド（遊び場）を誕生させる運動を支援している。1997年に設立され、このような NPO としては、米国では最初の団体と言われる。米国では、すでに 20 の州に展開しており、カナダを合わせると、その数は 100 を超えるという。

(<http://www.boundlessplaygrounds.org/>)

□Let All The Children Play（レット オール ザ チルドレン プレイ）

「障がいのある子どもがない子どもと一緒に遊んだり運動したりできるアクセシブルな公園とインクルージョンなレクリエーションプログラムを提供し、すべての子どもの人生の質と尊厳の向上を図る」ことを目的としている。2006年に設立された。

(<https://latcp.org>)

これらの NPO などが連携した誕生したインクルーシブなプレイグラウンドは、全米各地にある。

なお、ニューヨーク市公園・レクリエーション局では、市内のプレイグラウンドのアクセシビリティを以下のようなレベルに区分している。

ーアクセシビリティレベル定義ーニューヨーク市公園・レクリエーション局ー

レベル1：すべての子供たちが遊べる遊び場（注：レベル1が最高ランク）

レベル2：スロープ付きの遊具とだれもがアクセスできるブランコがある遊び場

レベル3：だれもがアクセスできるブランコがある遊び場

レベル4：移乗できるデッキのついた遊具や地面の高さで遊べる遊具のある遊び場

（ガイドライン本編p10の再掲）

1) Playground For All Children (フレイグラウンド フォー オール キルドレン)



アクセシビリティレベル1のプレイグラウンド。スロープ付きの大きな複合遊具などがある。

■施設概要

国名	アメリカ	都市名	ニューヨーク市
公園名	Flushing Meadows Corona Park	面積	約 508ha
広場名	Playground For All Children	面積	約 1.2 ha (図測)
整備主体	ニューヨーク市公園・レクリエーション局		
整備年次	1984年に整備され、2003年に改修。		
開園時間等	午後9時閉園。無料。		
整備概要等	障がいのある子どものために米国で建設された最初の遊び場と言われており、世界全体の同様の事例のプロトタイプとされている。3才から12才までの子ども向けの様々なアクティビティを提供している。松葉杖、杖、車いすを使用する子どもたちを受け入れ、社会的、認知的、感覚的、身体的な能力を成長させるため、多くの機会を提供できるように設計されている。アクセシビリティレベルは1である。		
主なUD遊具等	複合遊具のほか、ブランコ、複数種類の楽器遊具、学校やスクールバスを模した家形遊具（プレイハウス）、バスケットボールコートなどがある。どれも車いすでの行き来ができるように配慮されている。バスケットボールコートの観客席は、席の間のスペースが車いす対応になっている上、コンパニオンシーティングの考え方により健常者と同じ視点で観戦できるよう配慮されている。		

管理運営

すべての子どものための遊び場は、公園主催の学習プログラムを子どもたちに提供している。園芸と自然プログラムは、実践的な活動を通じて子どもたちに簡単な保全活動を教え、芸術工芸プログラムは、自己表現と創造性を高めるために工夫されている。

■航空写真



航空写真: Google Earth

■主な遊具・施設



入口部 利用者を迎えるゲート、注意標識、日除けなどが整備されている



プレイハウス 複数設置。車いすも入れる。コーススペースにもなる。



ラダー・鉄棒 車いすでも楽しめるよう、高さや幅などが配慮されている。



ブランコエリア 5座すべてが椅子型ハーネス付。



楽器遊具 大きめの楽器遊具で合奏もできる。複数ある。



打楽器遊具 複数ある。



車いすでも一緒に楽しめる野外卓



衝撃緩衝用舗装マット 段差処理にも効果的である。

2) Devoy Playground (デヴォイ プレイグラウンド)



緩やかなスロープの複合遊具などがあるプレイグラウンド。

■ 施設概要

国名	アメリカ	都市名	ニューヨーク市
公園名	Forest Park	面積	約 500 エーカー以上
広場名	Joseph E. Devoy Playground	面積	約 0.4ha
整備主体	ニューヨーク市公園・レクリエーション局		
開園時間等	午後9閉園。無料。		
整備概要等	<p>自閉症の子どもを持つ設計者が設計している。複合遊具、楽器遊具、ブランコなどが設置されており、なかでも特徴的なのは、複合遊具のデッキ部分にパネル遊具が多数設置されていることである。また、遊具広場の奥には、クワイエットコーギーゾーンが設けられ、興奮した子どもが気持ちを落ち着けられる工夫がなされている。</p> <p>小さなプレイグラウンドながら、大きな樹木があり、園路等の舗装の配置は、樹木の根張り範囲を考慮して設計されている。</p> <p>アクセシビリティレベルは4である。</p>		
主なUD遊具等	<p>複合遊具 パネル遊具各種 ブランコ 打楽器遊具（複数） 自然遊び場 （クワイエット コーギースペース）</p> <p>航空写真：Google Earth</p>		



■主な遊具・施設



パネル遊具 地面上で楽しめるパネル遊具。



複合遊具デッキ沿いのパネル遊具 車いすでも楽しめる。



複合遊具 滑り台へ移乗しやすい工夫がなされている。



打楽器遊具



ブランコエリア イス型2座、残り4座は平板型。



離れた静かな場所にある自然遊び場
コーススペースにも利用される。



休憩所 車いすと一緒に座れる野外卓がある。



コンパニオンシートの空間が確保されているベンチ。

3) Ancient Playground (アジャント プレイグラウンド)



ピラミッドのような形をしたシンボリックな滑り台がある。アクセシビリティレベルは1。

■施設概要

国名	アメリカ	都市名	ニューヨーク市
公園名	Central Park	面積	約 341 ha
広場名	Ancient Playground	面積	約 0.3 ha (図測)
整備主体	ニューヨーク市公園・レクリエーション局		
整備年次	当初の建設は 1960 年代と 70 年代。		
開園時間等	7:00 開園、夕暮れ時閉園。無料。		
整備概要等	<p>セントラルパーク内にある遊具広場。面積約 0.3ha。アクセシビリティレベル1の公園で、園内の複合遊具はすべて車いすでアクセスできる。</p> <p>ここでは、2-5才のエリアと5-12才のエリアに区分されている。2-5才のエリアの中心的な施設は、ブランコ、砂場、水遊び場。5-12才のエリアは、滑り台のある複合遊具2基、タイヤ型ブランコ、ややワイルドな砂遊び、水遊び場などがある。</p> <p>遊具は木調で、親しみやすく、プレイグラウンド全体のデザイン的統一感もあり、細部にまで行き届いた配慮がなされている。</p>		
主なUD遊具等 ブランコ 水遊び場 砂場 複合遊具	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>■ 平面図</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>■ 航空写真</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">航空写真：Google Earth</p>		

■主な遊具・施設



2-5才エリアのブランコ 椅子型は1座、バケット型2座、平板型2座



5-12才エリアのブランコ タイヤ型ブランコ2座。全方向に揺れ、挑戦レベルがやや高い。



5-12才エリアの複合遊具 木調のデザイン チューブの滑り台。



5-12才エリアの複合遊具 らせん状の滑り台 車いす用のスロープはない。



2-5才エリアの砂場



2-5才エリアの水遊び場



5-12才エリアの砂場



5-12才エリアの水遊び場

4) LATCP Accesible Park&Playground (LATCP アクセシブルパークアンドプレイグラウンド)



入口部。大きなゲートが利用者を迎える。

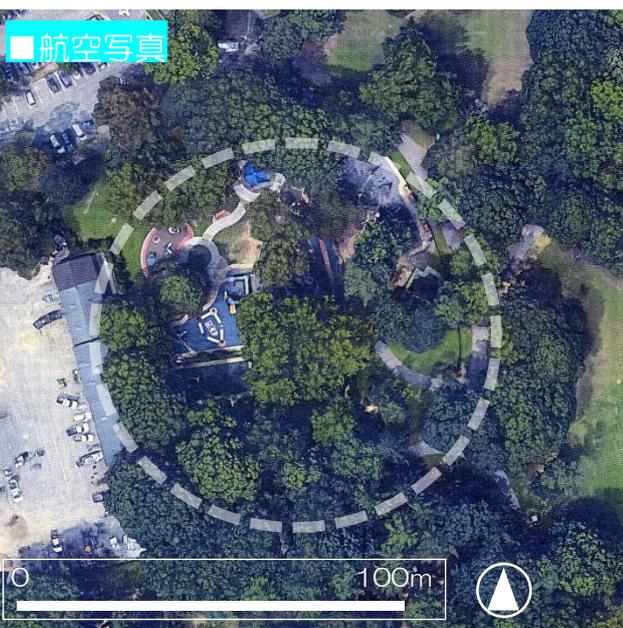
■ 施設概要

国名	アメリカ	都市名	ニューヨーク州 ロングアイランド
公園名	ニューヨーク州立アイゼンハワー公園	面積	約 380 ha
広場名	LATCP Accessible Park & Playground	面積	約 0.8 ha
整備主体			
整備年次	2012年		
整備概要等	<p>ニューヨーク州のロングアイランド、州立アイゼンハワー公園の中にあるプレイグラウンド。LATCPは、「Let All The Children Play」というNPOの名前の略。規模は砵公園や府中の森公園の遊具広場に近いか、やや大きめである。約8000㎡。年齢に応じたゾーニングがあり、様々な特性に応じた利用に対応できる多様な遊具がみられる。既存樹木も良く保全され、緑の多い広場となっている。</p>		

主なUD遊具等

複合遊具

地面上に架けられた吊橋
 車いすでも乗れる回転遊具
 椅子型ハーネス付ブランコ
 揺れ動く遊具
 バランス系遊具
 など



航空写真：Google Earth

■主な遊具・施設



利用案内板 利用上の注意事項が記載されている。



バランス系遊具 高難度系遊具 ユニバーサルデザインレベルは高くないが、車いすから移乗して楽しめる要素はある。



地面に架けられた吊橋 床板の揺れやスロープが楽しめる。



回る遊具 乗ると重みで回転する遊具。バランス感覚が養える。



2-5才のブランコエリア 椅子型、バケツ型、タイヤ型など、4種類ある。



5-12才エリアのブランコ



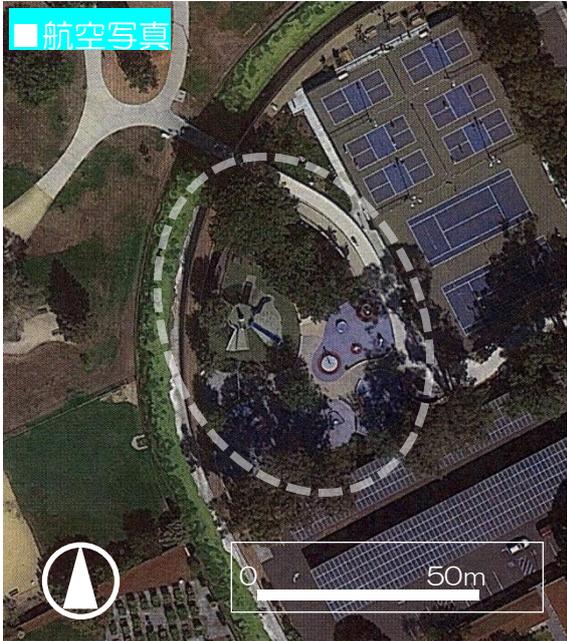
複合遊具 車いす使用者も利用できる。2~5才用。



回転遊具 車いす使用者も乗れる。

5) Palo Alto's Magical Bridge Playground (パロアルトのマジカルブリッジプレイグラウンド)

■施設概要

国名	アメリカ	都市名	カリフォルニア州パロアルト市
公園名	ミッチェルパーク	広場名	Magical Bridge Playground
整備主体	マジカルブリッジ財団		
公園面積	約 8.6 ha	広場面積	約 0.2 ha (図測)
整備年次	2015年4月		
開園時間等	9:00~16:30 月曜日は休園		
整備概要等	<p>サンフランシスコ市の南方、パロアルト市のミッチェルパーク内にある、障がいのある人にも配慮したインクルーシブなプレイグラウンド。地元に住む女性オレンカ・ビジャレアル氏が、重度の知的障がいを持つ娘を安心して遊ばせる公園がなかったことから、自らマジカルブリッジ財団を設立し、プレイグラウンドを設置した。インクルーシブなプレイグラウンドの先進事例として注目を浴びている。</p> <p>コロナ禍では、同時の利用者を55人に限定し、距離を保って利用するように管理している。</p>		
主なUD遊具等	<p>車いすでアクセスできる 滑り台 車椅子でも乗れて揺れを楽しむ遊具 円盤型やバケット型のブランコ 車いすから移乗して楽しめる ローラー付きのラダー プレイハウス など</p> <div style="text-align: right;">  <p>航空写真 Google Earth</p> </div>		

資料：<https://paloalto.prelive.opencities.com/Departments/Community-Services/Open-Space-Parks/Neighborhood-Parks/Mitchell-Park/Magical-Bridge-Playground>

「公園文化WEB」ミッチェルパーク(北アメリカ) (一財)公園財団

6) Redwood City 's Magical Bridge Playground (レッドウッドシティのマジカルブリッジプレイグラウンド)

■施設概要

国名	アメリカ	都市名	カリフォルニア州 レッドウッド市
公園名	レッドモートンパーク	広場名	Magical Bridge Playground
整備主体	レッドウッドシティ / マジカルブリッジ財団		
公園面積	約 5.6ha	広場面積	約 0.4 ha
整備年次	2020年12月	整備費	約 680万ドル (約 7.4 億円)
開園時間等	9:00～夕暮れ時		
整備概要等	<p>様々な身体的、認知的能力の子どもと大人のために、インクルーシブなデザインを取り入れて整備された。</p> <p>障がいのある子どもも滑れる滑り台や、車いすのまま乗れる回転遊具などが、柔らかなゴムチップ舗装の広場内に整備されている。</p> <p>管理運営を担当するスタッフ、マジカルブリッジチームが、利用状況を監視、また、遊びを支援している。</p> <p>約 680 万ドルの建設費のうち、330 万ドルは、マジカルブリッジ財団によって集められており、残りは住宅開発プロジェクトに課せられた市のパークインパクトフィー基金により支払われた。</p> <p>コロナ禍では、入口は2箇所、入場者数は 75 人と制限されており、混雑時の利用時間は 30 分に制限されている。</p>		
主なUD遊具等	<p>滑り台 椅子型ハーネス付きブランコ 車いすで乗れる回転遊具 スウィング遊具 プレイハウス など</p> <p>航空写真 Google Earth</p>		

■航空写真



資料： [Magical Bridge Playground | City of Redwood City](https://www.cityofredwood.org/development/magical-bridge-playground)

[Redwood City's Magical Bridge Playground opens Dec. 1 - Climate Online \(climaterwc.com\)](https://www.climateonline.com/redwood-citys-magical-bridge-playground-opens-dec-1)

7) Pioneer Park All Abilities Playground (パイオニアパーク オールアビリティプレイグラウンド)

■施設概要

国名	オーストラリア	都市名	クィーンズランド州カラウンドラ市
公園名	パイオニア・パーク	広場名	All Abilities Playground
整備主体	クィーンズランド州		
公園面積	—	広場面積	約 380 m ²
整備年次	2006 年		
整備概要等	<p>クィーンズランド州の障害者部局（DSQ:Disabilities Services Queensland）が取り組んでいる、「障がいの有無を問わないすべての子どものための遊び場（All Abilities Playground）」の第 1 号として整備されたという、歴史的に重要な遊び場。</p> <p>安全柵で囲まれた広場で、体幹の弱い子どもでも遊べるような遊具や、楽器遊具やパイプ電話、ハンモックや回転遊具、ハーブガーデンなどを楽しむことができる。</p> <p>このクィーンズランド州のノウハウを活かして、州内のセントハイランズ市と姉妹都市である一関市に、遊具広場が整備されている。</p>		
主なUD遊具等	<p>体幹の弱い子どもでも乗れるブランコやターザンロープ サンドテーブルを持つ砂場 振動する岩 回転する花 プレイハウス レイズドハーブガーデン スウィング遊具 点字案内板 など</p>		

資料：[Pioneer Park at Landsborough | All Abilities Playground | Brisbane Kids](#)

「みーんなの公園プロジェクト」

公園を知る「海外事例」 > [No.09 公園訪問 in クィーンズランド・オーストラリア\(前編\)](#)

8) その他の海外事例

海外には、そのほかにも、先進的な事例が数多くみられる。

市民グループ「みーんなの公園プロジェクト」は、ホームページにおいて「公園を知る〈海外事例〉」と題して、前記で紹介した事例を含めて、以下のような事例を紹介している。

■アメリカ

- ①シェーンズ・インスピレーション〈グリフィス パーク〉（ロサンゼルス）
- ②イマジネーション・プレイグラウンド（ニューヨーク）
- ③アッサー・レビー・プレイグラウンド（ニューヨーク）
- ④LATCP アクセシブル パーク アンド プレイグラウンド（ニューヨーク州）
- ⑤ミルストーン・クリーク・パーク（オハイオ州ウェスタービル）
- ⑥プレストンズ・ホープ（オハイオ州クリーブランド）
- ⑦ヘレン・ディラー・プレイグラウンド（サンフランシスコ）
- ⑧サーモン・ベイ・スクール（学校の遊び場）（シアトル）
- ⑨ディスカバリー・プレイグラウンド（ワシントン州オーバーン）
- ⑩ロータリー・プレイガーデン（サンノゼ）

■オーストラリア

- ①パイオニア・パーク（クイーンズランド州カラウンドラ）
- ②ローマ・ストリート・パークランド（ブリスベン）
- ③オール・アビリティズ・プレイグラウンド（ケアンズ）
- ④リヴィズ・プレイス（シドニー）
- ⑤ジョージ・グレーガン・プレイグラウンド（病院の遊び場）（キャンベラ）

■イギリス

- ①ロケット・パーク（ロンドン）
- ②ダイアナ・メモリアル・プレイグラウンド（ロンドン）

■カナダ

- ①キツラノ・ビーチパーク・プレイグラウンド（バンクーバー）
- ②ウィスラー・オリンピックプラザ・プレイグラウンド（ウィスラー）

[公園を知る「海外事例」 - みーんなの公園プロジェクト \(minnanokoen.net\)](https://www.minnanokoen.net)

<https://www.minnanokoen.net/playground-abroad/>

2 関係団体等のヒアリング結果概要

東京都では、「だれもが遊べる児童遊具広場」の整備に先駆けて、平成30年度(2018年度)に、関係団体、学識経験者等に遊具広場についての、要望、意見、指摘事項などのヒアリングを行った。

ヒアリング先は、肢体不自由児、身心障がい児、ダウン症児、発達障がい児、知的障がい児、視聴覚障がい児などの各関連、支援団体、学識経験者などである。

以下は、広場整備に参考になるとと思われる回答を、概括的にまとめたものである。

□遊具について

- ・ 健全な子どもが好む遊具は、障がいのある子どもも好む。
- ・ 多くの遊具は、障がいのある子どもは保護者がいないと遊ぶことはできない。
- ・ 自分で体幹を支えられない子には、体幹を支えてくれるような遊具、たとえばバケツ型や背もたれ付きのイス型のブランコなどが良い。
- ・ 保護者と一緒に滑れるすべり台や、一緒に乗れるブランコなどがあると良い。
- ・ クッション素材でハイハイして遊べるような遊具があると良い。
- ・ 体位変換や揺れなどが楽しめるトランポリンがあると良い。
- ・ 階段も良い。2～3段の階段の先が坂になっているとハイハイの訓練にもなる。
- ・ 車いすに乗ったままで利用できる遊具があると良い。
- ・ 健全な子どもと一緒に遊べる遊具があると良い。
- ・ 音や光、風、臭いなど刺激を与えてくれる遊具があると良い。
- ・ 二人で乗れるスプリング遊具などは良い。一人だと飽きてしまう。
- ・ 水場は必要。
- ・ 地面や壁に絵があるのは良い。
- ・ 子どもは揺れるという感覚が好き。

□周辺施設について

- ・ 飛び出しや動き周りで、どこかへ行ってしまうよう、柵はあった方が良い。
- ・ トイレのシートは体重制限があるので、大きな子どもでも利用できる介護用シートなどがあると良い。
- ・ だれでもトイレは、一人で満員となるので、大勢で利用する時には、複数あると助かる。
- ・ 駐車場では、車の背後のスペースに余裕があると良い。福祉車両の多くは、車の後ろから車いすを出し入れする。

- 医療機器や電動車いすのために、電源があると良い。
- 体力がないので、木陰で転がれる休憩施設があると良い。広めのベンチで、子どもを降ろせるだけでも良い。
- 貸し切りや予約ができれば良い。
- 遊具の近くに、親が見守れるベンチがあると良い。
- 健常児と障がい児の分けも、健常児からみておかしくない言葉で分けられると良い。

□色彩について

- ダウン症の子どもは、赤、青、黄色など、色がはっきりしているほうが良い。但し、自閉症の子どもは嫌がるかもしれない。
- 色盲、色弱の子は、コントラストがあれば大丈夫。
- 色覚障害の人への配慮が必要。日本だと赤緑色覚障がいの人が多いので、この二色の配色には気をつけた方が良い。赤の後ろに緑を配色すると見えない場合がある。
- 文字の場合、赤の周りを白で囲み、その周りを黒にするなどすると良い場合がある。
- 赤色や黄色などの原色はできるだけ使わない方が良い。注意喚起を促すために少し使う程度は仕方のない場合もあるが、極力避けるべき。攻撃性を誘発させる場合がある。赤色、黄色を使う場合は、少しトーンを落とした色にすると良い場合がある。
- 落ち着いた色としては、赤茶色や寒色系の色があげられる。

□その他

- 障がいがあると公園に行く機会が少ない。
- 日中、健常児と混ざって遊ぶのは大変なので、夜間に遊べる照明があると良い。
- ブランコなど気に入るとずっと遊んでしまうので、音で知らせるタイマーなどがあると良い。
- 想像以上に衣服を汚すので、手洗い場や着替え場所などがあると良い。
- 一緒に遊んでくれるプレイングパートナーなどがいると良い。
- トイレに音声案内があると助かる。
- 絵柄やピクトであれば情報が得やすい。
- 入口、出口をしっかりと認識できるようにしてほしい。

3 利用者モニタリング結果概要

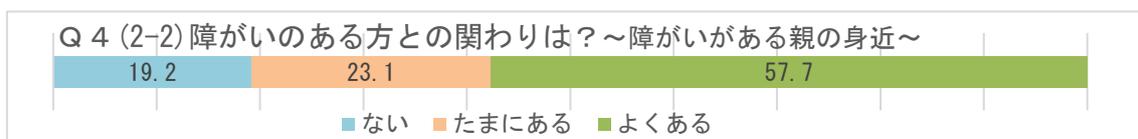
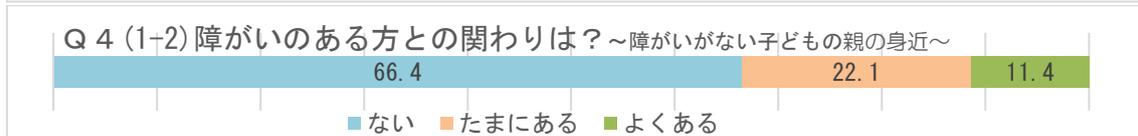
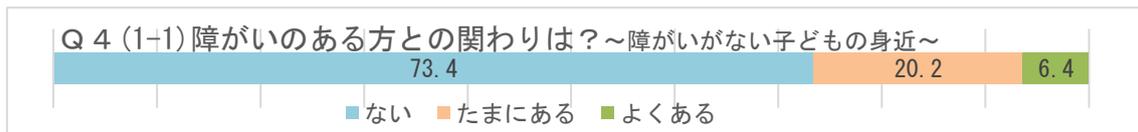
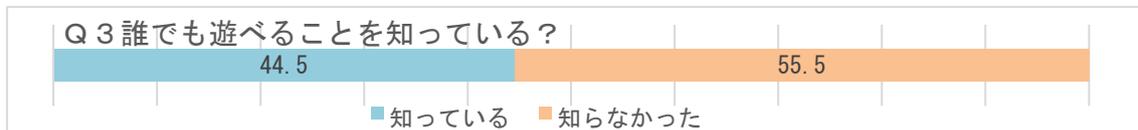
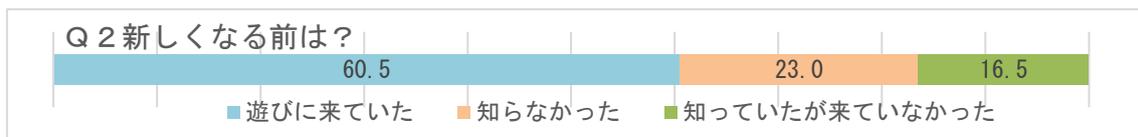
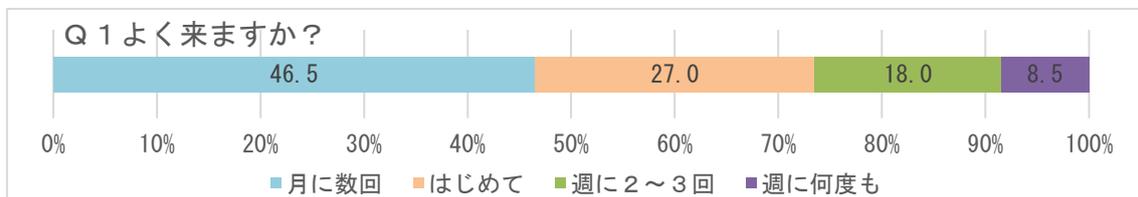
令和2年3月に開園した「都立砧公園 みんなのひろば」で行った、モニタリング結果を以下に示す。

実施目的：利用者の意見、感想を把握し、改善、利用促進に役立てる。

実施方法：対面式による聞き取り 子どもを遊ばせている親を対象にヒアリング

実施期間：R2. 8/31～9/13

総回答数：200



VI 参考資料

Q5 利用して感じたことや意見、要望は？

A：理解、利用促進に関すること

□積極的な意見等

- みんなのひろばでは、障がいを持っている子どもも遊んでよいとメッセージにもなるので心強い。
- このように遊べる施設ができたから子どもがとても喜んでいる。そこからはかなり頻繁に来ている。今日も5歳の子供が行きたいって言ったから来た。段差がなく、車いすの移動がしやすくて良い。（肢体不自由で電動車いすを使用する子の親）
- 公的な位置づけとしてインクルーシブな環境で遊びあえる公園ができたのはこれまでの歴史からみても前進。まさか出来るとは思っていなかったので感動。これまではこうした公園自体が無かったから、これからの教育のためにもインクルーシブな場が必要、ということ伝えるモデルとしてここがあると良い。（発達障がいをもつ子の親）
- 遊具をみてコンセプトがわかった。普段障がいのある子どもと関わる機会がないので、このひろばで障がいのある子どもと関われる時間があると、子ども同士に良いと思う。（健常児の親）
- 目立つ子じゃないと障がい児とわからないので、普通に遊んでいる。

□消極的な意見等

- いい場所だとは思う。健常者が多いから……。遊ぶには気が引ける。（発達障がいをもつ子の親）
- 他人の子どもに声をかけづらい。
- 障がいのイメージがわからない。先天性の障がい、後天性しかわからない。
- 障がい児の親でわざわざ公園に行くのはある程度余裕や元気のある人だけ。
- 障がい児の親は、外出先での心の負担が大きい。（理解されない）
- 心は遊びたい気持ちでいっぱい。だけど目線が……。 （知的障がいをもつ人の親）
- お互い様の雰囲気がないと関わり方が難しい。私の田舎では、ハンディのある子どもが街中で普通に遊んでいた。ふだんの生活の中で話したり関われる関係性がないと難しい。（健常児の親）
- 「できれば障がい児とかかわりたくない」という意見多数。
（けがをさせたらどうしよう/変な親、子だったらどうしよう/何かあったときに責任をとれない/迷惑をかけたくない）
- 障がいのある子が遊べる遊具（公園）だけでなく、地域の中や教育等で子どもの頃から障がいについて関われる場が増えていかないと、結局は差別的に扱われると感じる。（発達障がいをもつ子の親）

□要望等

- 利用時間の検討（夏場の延長）
- 団体利用（遠足）について制限してほしい。
- プレイワーカーや職員がいてほしい。（子どもの見守り、園内ガイド）
- 当事者団体のワークショップがあれば参加しやすいし、出かけるきっかけになる。

B：遊具や施設に関すること

□積極的な意見等

- ・遊具がカラフルで子どもがわくわくする。
- ・ブランコが一番人気。
- ・フェンスが飛び出し防止になり、ありがたい。
- ・フェンスがあると小さい子どもが飛び出さず安心。子どもを少し放っておくことができるので大人もリラックスできる。
- ・きれいで使いやすい。
- ・夜間のごみ（たばこ/缶など）が落ちていなくて安心できる。
- ・ゴムマットはとても良い。子どもが安心して走り回れる。

□消極的な意見等

- ・わくわく広場の看板がみんなのひろば側に立っているので、小さい子しか入れないと勘違いしていた。
- ・芝生エリアからぐるっと回ってひろばの入口にいかないといけないので不便。（意見多数）
- ・対象年齢が低い遊具が多く、小学生以上には遊びづらい。
- ・遊具とおしの距離が近い。
- ・1歳児がボルダリング遊具の壁と壁のスキマに落ちてしまいそうになった。
- ・滑り台の幅が広いので小さな子どもが滑るとひっくり返る。（大人がついていないといけない）
- ・椅子型ブランコのハーネスの付け方がわからない。（固くて着けられない人多数。）
- ・船型遊具の舵部分がでっぱっていると良い。脳性まひの子どもの車いすは体全体が斜めに向いているのでスロープを上がることはできても車いすの足の部分までしか届かず、手が届かない。
- ・砂場がないのが残念。
- ・子どもだと、トイレへのアクセスが遠い。

□要望等

- ・バラ園側から出入りできるように出入口を増設してほしい。（要望多数）
- ・案内図を増やしてほしい。（園内全体マップ、水飲み場、だれでもトイレの場所など）
- ・日よけ、日陰スペースがほしい。（要望多数）
- ・感触遊びができるようにしてほしい。（砂場、土場、水遊びなど）
- ・滑り台に日除けをつけてほしい。（暑い日でも利用可）
- ・水場をエリア内に設置してほしい。
- ・回転遊具は座位がとれない（座れない）子どもはずり落ちてしまうので、捕まる箇所が股下か固定できるものがほしい。
- ・もう少し自然の要素を入れてほしい。
（植物／お花／虫がいないので、葉っぱが虫の形に似ている植物とか変わったものがあると遊具に興味のない子どもでも楽しめる）
- ・見渡せる場所に大人が座れる場所（休憩できる場所）がほしい。
- ・伝声管はコロナの飛沫防止のため使用禁止にしてほしい。（壊れている、聞き取りづらい等の意見多数）

4 用語

アクセシビリティ：近づきやすさやアクセスのしやすさ。利用のしやすさの意味も含む。

安全領域：遊具の安全な使用に必要とされる空間。

移乗システム：移乗プラットフォームと移乗階段で異なる階をつなげる構造単位で、車いすや歩行器などの移動補助具の利用者が乗り移って高架上の遊び遊具等へアクセスすることを可能にする仕組み。

移動等円滑化：高齢者、障害者等の移動又は施設の利用に係る身体の負担を軽減することにより、その移動上又は利用上の利便性及び安全性を向上すること。

インクルーシブ：インクルーシブ (Inclusive) とは、包含性、すべてを含むという意味があり、対義語はイクスクルーシブ。インクルーシブなプレイグラウンドとは、障がいの有無などに関わらず、あらゆる児童と一緒に遊べる遊び場をさす。

公園あるいは公園等：都市公園以外の公園、例えば国民公園、海上公園、自然公園などを含む。

公園管理者：都市公園法に基づく、都市公園の設置・管理者。地方公共団体の設置に係る都市公園にあっては当該地方公共団体、国の設置に係る都市公園にあっては国土交通大臣。

コージー：居心地のよい、こぢんまりした、くつろいだ、といった意味。

児童：おおむね3才から12才までの子ども。幼児と小学生に区分される。幼児は、おおむね3才から6才までの子ども、小学生は、おおむね6才から12才までの子ども。（〈一社〉日本公園施設業協会の「遊具の安全に関する規準」では、「幼児」は3才から6才、「児童」は6才から12才と区分している。）

児童遊具広場：本ガイドラインでは、これまでの都市公園等に整備されてきた子どものための遊び場を総称して児童遊具広場と呼ぶ。ユニバーサルデザインの視点をもたず、従来の設計思想で整備されてきた児童の遊び場をいう。

ゾーニング：一般的には、都市計画における「地域地区制」における地域割をいうが、公園の場合、敷地のおおむねの空間構成、土地利用構成を多角的視点から決めていく一連の作業。

だれもが遊べる児童遊具広場：障がいの有無や、国籍などに関わらず、あらゆる児童と一緒に遊べるよう、ユニバーサルデザインの視点で整備した、インクルーシブな遊び場。本ガイドラインでは、児童は3才から12才の子供が主体であるが、利用者は、保護者や兄弟など幅広く受け入れる。

地域ニーズ：遊びや遊具、広場の安全などに関する地域住民、利用者の要望。

動線：公園内の利用者の動きを示す線。人（歩行動線）、自転車、車いすなどの動線がある。異質の動線が交錯しないように配慮する必要がある。

都市公園：都市公園法（昭和31年法律第79号）第2条に規定されている都市公園。

特定公園施設：移動等円滑化が特に必要なものとして施行令で定める公園施設。

ハザード：遊びの価値とは無関係なところで事故につながる危険性。また子供の予測や判断が不可能な危険性。

バリアフリースイレ：現在、多目的トイレ、多機能トイレ、だれでもトイレなど、いくつかの呼称がある障害者向けのトイレを、国土交通省は、今後（2021年3月より）「バリアフリースイレ」と呼ぶこととしている。本ガイドラインでも、バリアフリースイレとした。本当に使用したい人の使用を優先させたいという意図がある。

保護者：広場へ同伴した子どもに対して保護責任がある者。子どもの父母、祖父母、保育園や幼稚園の保育士、小学校の先生、福祉施設等の介護者等。

遊具：都市公園法施行令第5条第3項に示された遊戯施設のうち、主として子どもの遊びに供することを目的として、地面に固定的に設置されるもの。（ぶらんこ、滑り台、シーソー、ジャングルジム、ラダー（雲梯）、その他これらに類するもの）

ユニバーサルデザイン：年齢、性別、国籍、個人の能力に関わらず、はじめからできるだけ多くの人利用可能なように利用者本位、人間本位の考え方にたって快適な環境をデザインすること。東京都では、「公平」、「簡単」、「安全」、「機能」、「快適」の5つの視点に基づいたデザイン、としている。

リスク：冒険や挑戦の対象にもなる適切な危険性で、遊びの価値のひとつ。また子供の予測や判断が可能な危険性。

レイズド：目的があって持ち上げられた、という意味。車いす使用者やしゃがめない高齢者のために持ち上げた場合などに使われる。レイズド砂場、レイズド花壇など。

5 関連団体等

バリアフリー、ユニバーサルデザインに関する関連情報、各種障がいに関するアドバイスや支援に関する情報等をもつ団体等として、以下のような団体等があげられる。

(公財) 交通エコロジー・モビリティ財団 バリアフリー推進部
<http://www.ecomo.or.jp/>

(一財) 国土技術研究センター 道路政策グループ (ITS 推進部)
<http://www.jice.or.jp/>

人にやさしい建築・住宅推進協議会
<http://www.jaeic.or.jp/hyk/index.htm>

(福) 日本身体障害者団体連合会
<http://www.nissinren.or.jp/>

(福) 日本視覚障害者団体連合
<http://nichimou.org/>

(一財) 全日本ろうあ連盟
<https://www.jfd.or.jp/>

(公社) 日本オストミー協会
<http://www.joa-net.org/>

(NPO) 全日本精神障害者団体連合会
<http://zenseiren.sactown.jp/>

全国手をつなぐ育成会連合会
<http://zen-iku.jp/>

(一社) 日本発達障害ネットワーク
<http://jddnet.jp/>

(一財) 保健福祉広報協会
<http://hcrijapan.org> (車いす、ベッド、トイレ、福祉車両、福祉機器等)

(公財) テクノエイド協会 福祉用具情報システム (TAIS)
<https://www.techno-aids.or.jp/> (国内福祉用具メーカー、輸入業者、福祉用具 等)

東京大学先端科学技術研究センター・福島研究室/バリアフリープロジェクト
<http://bfr.jp>

(独) 情報通信機構 (NICT) ・情報バリアフリーのための情報提供サイト
<http://barrierfree.nict.go.jp>

資料：みんなの公園づくり (改訂版) 平成 29 年 3 月 発行 (一社) 日本公園緑地協会
監修 国土交通省都市局公園緑地・景観課 を参考に作成

6 関係法令・基準等

(1) 国の法令等

法令等

- ① 高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）
平成 18 年法律第 91 号（平成 23 年 8 月 30 日改正）

- ・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令
平成 18 年政令第 379 号
- ・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行規則
平成 18 年国土交通省令第 110 号
- ・移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める省令 平成 18 年国土交通省令第 115 号

基準・指針等

- ① 都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン
（平成 24 年 3 月改訂版） 国土交通省
- ② 都市公園における遊具の安全確保に関する指針（改訂第 2 版）
平成 26 年 6 月 国土交通省
- ③ 知的障害、発達障害、精神障害のある人のための施設整備のポイント集
国土交通省

(2) 東京都の条例・基準等

条例等

- ① 東京都立公園における移動等の基準に関する条例
平成 24 年 12 月 13 日条例第 150 号
- ・同条例施行規則
平成 24 年 12 月 21 日規則第 170 号
- ② 東京都福祉のまちづくり条例
改正平成 21 年 3 月 31 日
- ・同条例施行規則・
改正平成 31 年 3 月

基準等

- ① 東京都福祉のまちづくり条例 施設整備マニュアル
平成 31 年 3 月改訂版
- ② 福祉のまちづくりをすすめるためのユニバーサルデザインガイドライン
—身近な建築物からはじめるユニバーサルデザインガイドライン—
平成 18 年 1 月 東京都

VI 参考資料

- ③ 東京都カラーユニバーサルデザインガイドライン
平成 23 年 3 月 東京都
- ④ 区市町村・事業者のための「心のバリアフリー」及び「情報バリアフリー」
ガイドライン 平成 28 年 3 月 東京都

(3) 準民間の基準等

- ① みんなのための公園づくり（改訂版）発行（一社）日本公園緑地協会
平成 29 年 3 月 発行/（一社）日本公園緑地協会
監修/国土交通省公園緑地景観課
- ② 遊具の安全に関する基準 JFPA-SP-S:2014（一社）日本公園施設業協会
2014 年 6 月
- ③ 都市公園技術標準解説書（令和元年度版）（一社）日本公園緑地協会
監修/国土交通省公園緑地景観課

(4) 民間の基準・ガイド等

- ・すべての子どもに遊びを
～ユニバーサルデザインによる公園の遊び場づくりガイド～
みーんなの公園プロジェクト編著 2017 萌文社
(改訂ウェブ版 PDF ファイル) もある。
- ・遊具メーカー各社のカタログやガイド等

(5) 参考文献

- こどもの遊び、障がいのある子どもの遊びに関する文献
 - ・こどもを育む環境、蝕む環境 仙田 満 2018 朝日選書 朝日新聞出版
 - ・子どものための遊び環境/PLAY FOR ALL Guidelines ロビン・ムーアほか編著
(吉田鐵也・中瀬巖訳) 1995 鹿島出版
 - ・発達障がいのある子どもの 運動と感覚遊びを 根気よくサポートする!
木村 順 監修 2014 日東書院
 - ・脳と体をそだてる 感覚あそび 鴨下 賢一 編著 2017 合同出版
- 海外の基準等
 - ・The Good Play Space Guide : “I can play too”
State Government Victoria オーストラリア ヴィクトリア州
日本語訳：みーんなの公園プロジェクト
 - ・遊び場の ADAAG の概要 みーんなの公園プロジェクト 訳・編集
(ADAAG : Americans with Disabilities Act Accessibility Guidelines)